

人生ハンド仏句

第52号

H. 18. 7. 1
(毎月1日発行)

一瞬の極楽

住職 谷川寛俊

芥川龍之介の作品に「くもの糸」という童話があります。

これは、カンダタという大悪人が「一匹のくも」を踏みつけたかった事を理由に、お釈迦様は地獄で苦しんでいるカンダタを救ってやるうと思ひ、極楽の糸の池にかかっているくもの糸を、その池の真下にある地獄の血の池へたらしめました。

カンダタは、この糸を手探りで登っていけば、必ず極楽に行けると思つて、必死になつて登つていきました。

ふと下を眺めると、自分と同じように何千何万と地獄で苦しんでいる者たちが登つてきました。

それを見たカンダタは、「これは俺の糸だ、誰の許しを受けて登つてきたんだ」と大声で怒鳴りつけました。

そのとたん、カンダタの手元から糸が切れカンダタは、又元の血の

編集・発行
玉蓮山 真成 寺
編集部
TEL・FAX (0765)22-2268
メールアドレス
kokorochanthk@ybb.ne.jp
ホームページアドレス
<http://www.geocities.jp/sinijoujitoyama108/>

池へ落ちていった。と言うあらずじです。

「一瞬の極楽」「一瞬の地獄」という言葉がありますが、この言葉はカンダタの心そのもの、いや私達の日常生活の一瞬一瞬を指しています。

一瞬の極楽を作る時もあれば、一瞬の地獄を作り出すことも多々あります。願わくば「一瞬の極楽、一瞬の仏」と転じ、更には「一瞬の極楽、一瞬の仏」から「永遠の極楽、

永遠の仏」と精進努力できれば最高の幸せだと思います。そうは言うものの、この現実の娑婆世界で、凡夫の自分であれば、一瞬でも一時でも極楽が作れば、まずは合格なのではないでしょうか。

